



海中だより

海中便り第424号
常総市立水海道中学校
令和3年1月8日発行
責任者 服部 仁一

あけましておめでとうございます。

2021年元旦。“みつかいどうー理塚ロードパーク”からの初日の出です。「海中生にとって素晴らしい一年になりますように」お祈りしました。すべての夢がかなうような、雲一つない初日の出でした。

みなさんのコロナ禍のお正月はどうでしたか？常総市は、外出自粛で少し残念でした。でも、家族団らんの貴重なお正月だったかな・・・。

わたしは、1日、2日、3日と駅伝漬けでした。特に、箱根駅伝は今年もドラマがありました。もう、みなさんもテレビニュースなどで見たかとは思いますが、駒澤大学の大逆転劇がありました。往路優勝した創価大学と3位だった駒澤大学との差は、2日目のスタート時点でおおよそ3分。6区7区8区で約1分まで迫り、ここからさらに追いつこうとした9区で、駒澤大は反対に3分19秒も離されます。誰もがあきらめかけた最終10区。駒澤大の石川拓慎選手はあきらめていませんでした。ゴールまで残り約2キロの地点で追いつき大逆転を果たし総合優勝をもぎ取ったのです。優勝インタビューで大八木監督がこんなことを言っています。「あきらめなければ・・・、何が起こるかわからない」監督も選手に教えられたようです。

また、一方で創価大の出場4回目での大躍進も忘れてはなりません。優勝を目前にし、選手はとてめえくやしさをしました。しかし、この悔しい経験を武器に、来年は一段と強いチームが作りあげられることでしょう。創価大アンカーの小野寺選手はレース後、自身のツイッターに「ごめんなさい。全部受け止めて来年強くなっています。これからはどうか創価大学の応援よろしくお願いします」とつぶったそうです。素晴らしい選手ですね。

今年も私たちは、駅伝から多くの感動を味わい、多くのことを学びました。令和3年の年頭に当たり、海中生全員が励ましあいながら、あきらめることなく自分の夢に向かって挑戦し続けることを誓い合しましょう。

「あきらめなければ、必ず夢は叶うはずです。」

校長 服部 仁一

